

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ1 杜の都のみどりの育み、未来への継承

No.	ご意見・ご質問	回答
1	仙台市が他の都市と比較してどれくらい緑があるのかが情報として必要。	本市では、市民協働により杜の都のみどりを守り育てまいりましたが、平成26年度調査時点で、仙台市の緑（緑被地：樹林地や公園、草地、農耕地、水面）の総量は約62,346ha、緑被率（緑被地が市の面積に占める割合）は79.3%となっており、他の政令指定都市と比較しても高い水準となっております。最新の調査は令和元年度に行い、現在数値を集計しております。こうした情報は、これまでホームページで公開してまいりましたが、今後は様々な広報手段を活用して、情報発信を進めていきます。
2	植木市、新緑祭などのイベントを、若い世代の人たちも楽しめる雰囲気のできたら良いと思います。	植木市や新緑祭など緑に関するイベントにつきましても、若い世代に人気のあるハーバリウムづくりのワークショップや、子どもの遊び場コーナーを設けるなどの工夫をしてまいりましたが、今後とも幅広い年代の方が楽しむことができるイベントについて検討してまいります。
3	子どもと年配の方以外の大人がもっと関われる取り組みが必要だと思えます。	杜の都のみどりは、これまで「百年の杜づくり」事業を通じて、多くの方に関わっていただくことで培ってまいりました。本市を象徴するこのみどりを未来に繋いでいくため、幅広い年代の方に関わっていただくことが重要であると認識しております。今後ともイベントの開催等を通じて、取り組みを行ってまいります。
4	緑化計画・推進の助成制度や、「緑のイベント」についての情報をもっと広げるべき。	本市では、緑化助成やイベントなど緑に関する様々な取り組みを行ってまいりましたが、緑豊かなまちづくりを進めるため、こうした取り組みをより多くの方に知っていただき、利用していただくことが重要であると認識しております。これまで、市政だよりや百杜通信（本市発行の緑に関する小冊子）などで広報してまいりましたが、今後はホームページやSNSなど様々な広報手段を活用して、情報発信を進めてまいります。
5	「杜の都」を未来にも継承していくためにも、現在行っている取り組みの知名度をもっと上げるべき。	本市では、市民協働により杜の都のみどりを守り育てまいりましたが、本市を象徴するこのみどりを未来に繋いでいくため、こうした緑に関する取り組みをより多くの方に知っていただき、利用していただくことが重要であると認識しております。これまで、市政だよりや百杜通信（本市発行の緑に関する小冊子）などで広報してまいりましたが、今後はホームページやSNSなど様々な広報手段を活用して、情報発信を進めていきます。
6	色んな助成事業があることや、取り組みがあることを知り、このまま、さらに活動が拡大されたらよいと思いました。	本市では、これまで助成事業をはじめ緑に関する様々な取り組みを行ってまいりましたが、杜の都にふさわしい緑豊かなまちづくりをより一層推進できるような施策について検討してまいります。
7	「エリアマネジメント」に対する市としての取り組みがわからない。	本市では、今後の都市の持続的な発展を担う、地域主体のまちづくりを推進するため、公共空間の利活用や維持管理も含めたエリアマネジメント等を、立ち上げから日常的な活動まで広く支援しております。今後は様々な広報手段を活用して、情報発信を進めていきます。
8	仙台の緑を豊かにしていくうえで、この“つどい”だけでなく、全市民を対象にしたアンケートをやっていただきたい。	現在、市民・事業者・行政が緑の取組みを実施するにあたり、基本的な方針を示した「仙台のみどりの基本計画」の新計画を策定中であり、その中で市民の皆様からご意見をいただくワークショップを3月に行う予定です。今後も様々な機会を捉えて、皆様のご意見をお聞きしてまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ2 脱炭素都市づくりの推進

No.	ご意見・ご質問	回答
1	プラごみをどのように再利用しているか周知されていないので、知りたい。	本市では、収集したプラスチック製容器包装は、本市施設で選別・異物の除去を行った後、容器包装リサイクル法に基づき、日本容器包装リサイクル協会へ引き渡しております。引き渡し後については、大半が物流で用いられる荷物を載せるためのパレット等のプラスチック製品に再商品化されており、これ以外についても、全量、国内でリサイクル処理されております。
2	一般家庭の断熱改修や自然熱エネルギー利用システムの導入について、初期費用やランニングコスト削減の具体例を示すと良い。	削減効果の事例等については、家庭における省エネ行動を促進するために重要な情報であると認識しております。初期費用や削減効果等につきましては、機器の性能や住宅の規模などに左右されますが、具体の事例を含めた周知方法について検討を進めてまいりたいと考えております。
3	事業活動の温室効果ガス排出抑制について、事業者への助成などは考えているのか。	事業活動からの排出抑制については、空調機などの設備に関する運用改善のほか、省エネ設備等を導入する設備投資が有効であると認識しており、低炭素型ボイラーへの転換に対し助成を行っております。 また、2020年4月から施行される「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づいて行う、事業活動からの排出削減の取り組み（温室効果ガス削減アクションプログラム）においては、設備の運用に関する助言等を実施してまいりますほか、国等の助成事業の分かりやすい紹介など、事業者の省エネ促進に必要な施策について検討を進めてまいりたいと考えております。
4	事業評価ができるよう、削減目標に対する実績の見える化を進めてほしいです。	「仙台市地球温暖化対策推進計画2016-2020」における削減目標に対する温室効果ガスの排出実績につきましては、市のホームページや「杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）」に基づく実績報告書である「仙台市の環境」等において毎年度公表しているところです。
5	目標や達成状況について「数字で」表して欲しい。	
6	もう少し、企業側と仙台市の取り組みについて知りたいです。	事業活動からの温室効果ガス排出削減につきましては、2016年度から2017年度にかけ、計画的な削減に取り組むモデル事業を市内10事業所の参画により実施し、その結果を「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」における「温室効果ガス削減アクションプログラム」の内容に盛り込み、条例が施行される2020年4月から本格的に取り組むこととしております。本制度では、参加事業者の取組に関し、市が助言や評価・表彰を行うことなどにより、市と事業者が連携して削減に取り組むこととしており、事業者の優れた取組については市のホームページなどでも紹介してまいりたいと考えています。
7	広報不足だと思います。	2020年4月から施行される「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」の施行に向け、事業活動からの排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を含めた内容についてご紹介するパンフレットを市民利用施設等において配布しますほか、市民・事業者・行政が協働して「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」の「3E」の普及啓発に取り組む「せんだいE-Action」における各種イベント等、様々な機会を捉えてPRしてまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ3 多文化共生社会の形成

No.	ご意見・ご質問	回答
1	多文化共生センターを開設し、相談対応言語を増やしたことは心強い。行政サービスが外国人住民にも対応できるようにすることも必要だと思います。	外国人住民の方がスムーズに手続きができるよう、庁内の各部署において、翻訳機の導入や、申請書の多言語化等の取り組みを行っております。また、今年度から通訳による支援をおこなうため、コミュニティ通訳サポーター派遣事業も開始しております。今後もより一層取り組みを進めてまいります。
2	地域のような小さい単位で外国人住民とのつながりをつくるのが大切。	地域住民と外国人住民とのつながりをつくることは、重要な課題であると考えております。一部の町内会等では、外国人住民の方々に地域のお祭り等のイベントに参加していただくなどの交流を行っている把握しておりますが、このような取り組みが広がっていくよう、機会を捉えて支援を行っていききたいと思います。
3	外国人住民に日本の文化・風習を教える場が必要だと思います。	新たに仙台での生活を始めた外国人住民に対し、日本でのごみの分け方や交通安全、防災など、各種情報を提供する生活オリエンテーションを開催しております。今後も大学や日本語学校等と連携しながら、取り組みを行ってまいりたいと思います。
4	外国人は災害時に情報弱者になりがちなので、支援を強化してほしい。	災害時には仙台市災害多言語支援センターを立ち上げ、多言語での情報提供、相談対応などを行っておりますが、引き続き訓練等の実施により対応力を高めるとともに、各機関との連携を一層図りながら、課題解決に努めてまいります。
5	日本人の外国人住民に対する理解を深める取り組みが少ない。	冊子やインターネットによる広報、学校や市民センターなどが行う国際理解事業への講師の派遣や情報提供、連合町内会等への説明会等を行っておりますが、今後も幅広く取り組みを進めてまいります。
6	英語圏などのメジャーな国の方への対応は現状維持でいいが、それ以外のマイナーな国から来日されている方への対応が課題。	近年増加しているベトナム語・ネパール語については、対応を強化しているところですが、それ以外の希少言語でのサポートに関しては、翻訳者や通訳者の確保などに課題もあります。これまでの事業を通して培ってきたつながりを生かして、支援体制の充実を図っていききたいと思います。
7	①ベトナム、ネパール人が増えている理由と、その動きをどう捉えているのかを知りたい。 ②語学学校、就労などについて、仙台では問題は起こっていないのか。 ③東アジアとの市民交流は、具体的にどう進めるのか。	①日本語学校等の留学生の増加が主な要因と認識しております。今後も増加していくことが見込まれており、各種情報提供などの際にはベトナム語・ネパール語版のものを作成するなど取り組みを行っております。 ②本市においては、明確な課題となっているものは他都市と比較すると少ないと考えておりますが、今後も外国人材受け入れ拡大などにより住民数の増加が見込まれることから、学校や企業、地域との情報共有等を行ってまいりたいと思います。 ③仙台市は、東アジアの中では中国・長春市、韓国・光州広域市、台湾・台南市と姉妹都市等を結んでおり、これまで市民交流をベースとしたさまざまな分野での交流を深めてきました。今後も、都市間の友好関係を維持・発展させてまいりたいと考えております。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ3 多文化共生社会の形成

No.	ご意見・ご質問	回答
8	<p>震災後、8年が経過した今でも、今回の台風対策に対する外国人支援の現状を振り返ると、支援に対する取り組みが変わっていないのではないかと感じた。</p> <p>外国人住居としての地域コミュニティ、地域住民との関わりを具体的にどうしていくか、どのようにしたらいいのか、もっと身近なところで、ていねいに考えていく必要があるのではないだろうか。</p>	<p>災害時には仙台市災害多言語支援センターを立ち上げ、多言語での情報提供、相談対応などを行っておりますが、引き続き訓練等の実施により対応力を高めるとともに、各機関との連携を一層図りながら、課題解決に努めてまいります。</p> <p>近年、外国人住民の方々が生活する場所が散在化していると思われることから、地域住民の方々との関わりについては課題と考えております。今後も、日本人住民、外国人住民が暮らしやすいまちづくりのため、地域への情報提供を行う等の取り組みを進めてまいりたいと思います。</p>
9	<p>台風19号が来ているときに情報をもらったが、台風が来る前の情報発信が少なくなかったか。</p>	<p>台風19号の接近時には、仙台観光国際協会のホームページ、メールマガジン、SNS等で多言語（英語、中国語、韓国語、やさしい日本語等）で警戒情報を発信しておりましたが、より多くの方々に情報が届くよう、発信方法の検討などを行ってまいりたいと思います。</p>
10	<p>私達も外国の文化に触れる機会が増えたら良いと思います。</p>	<p>毎年、仙台国際センターにおいて、各国の文化に触れ、交流することができるイベントである「せんだい地球フェスタ」を開催しております。今後もこのような機会をつくっていくとともに、より多くの方にご参加いただけるようPRを行ってまいります。</p>
11	<p>是非、多文化共生の中でテーマを絞って、現状と課題を具体的に検討する機会を作ってください。</p>	<p>今回、参加者の皆様により大変活発な議論が行われていたことから、こうした機会の重要性を改めて感じたところです。今後も、各種シンポジウム等の開催や、学校や市民センターなどが行う国際理解事業への講師の派遣などを行い、多文化共生に関する様々な情報や各種課題について、市民の皆様と共有してまいりたいと思います。</p>

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ4 地域コミュニティの強化

No.	ご意見・ご質問	回答
1	回覧板とか、今のやり方を見直していくことも必要かと思われる。	ホームページや市政だよりによる周知のほか、町内会個別のお知らせ等について、町内会役員向けの講座等を通じて様々な世代に広く認識いただくための周知方法の事例紹介をさせていただいております。今後もより効果的な広報の仕方について検討してまいります。
2	若い世代を含め、町内会の役割や必要性を丁寧に説明する必要があると思います。	若い世代への働きかけも非常に重要であると認識しております。町内会の役割や必要性について、わかりやすい情報発信に引き続き努めます。
3	地域の意見を聞く集まりや、参加しやすいオープンな話し合いの場があると良いと思います。	地域の方々から直接お話をお伺いする場として、各区で地区連合町内会単位での地域懇談会を開催しております。今後もこのような機会をとらえて地域の方々のご意見をお聞きしてまいりたいと思います。
4	町内会は子ども、年配の方向けのイベントが多いので、若者や働いている人も参加しやすい地域の行事があると良いと思います。	町内会の活性化には、若い方や働いている方々の参加も非常に大切なことから、町内会役員向け講座等を通じ、工夫した取り組みの事例紹介等を行ってまいります。
5	市民の主体的なニーズによる主体的な活動や組織・体制づくりが大切です。行政はそれをサポート・推進する仕事をするのが良いと思います。	ご意見のとおり、地域課題が複雑化・多様化するなか、地域が主体となった活動が大切であると認識しており、市としても、地域の取り組みをより一層推進できるよう、施策検討を行ってまいります。
6	「地域・コミュニティ活動強化事業」はすばらしい活動なのでぜひ継続して欲しい。町内会は身近な地域の問題解決に重要な役割を果たしており必要な組織である。地域のまちづくりを進めるには、町内会よりも広い中学校区くらいの範囲で考える体制作りが必要ではないか。	ご意見のとおり、町内会は地域において重要な役割を果たしています。地域課題が複雑化するなかで、単一町内会のみでは解決が難しい場合には、地域の状況も踏まえ複数の町内会で連携して取り組むことも必要であると考えております。
7	仕事している方は、活動がむずかしいと思うが、働いている人も参加しやすい、役所、会社の応援体制が必要。	地域の活性化には仕事をされている世代の方々への参加も必要であることから、市で開催する会合等については、夜間、休日等の実施も検討する等、工夫してまいります。
8	地域の町内会の代表者の高齢化が課題。民生委員や町内会長になると「あて職」でいろいろな事が任せられる、負担になっている。	本市としても町内会役員の高齢化、また、それに伴う担い手不足は大きな課題と認識しております。役割の分担、負担軽減が図れるよう、町内会役員向け講座等を通じて担い手確保のための情報提供をしていくとともに、引き続き負担軽減について検討してまいります。
9	地域コミュニティを担う人達の負担の分担が必要と感じています。	負担の分担が行えるよう、町内会役員の担い手確保や地域活動内容の見直し等に関して講座等を通じて情報提供してまいりたいと思います。
10	まちづくりプロジェクトの成功例については大変良い取り組みだと思いました。どちらも子育て世代や高齢者を対象としている印象をうけましたので、今後は20～40歳の世代を対象としたものもあると、より広い層が参加しやすくなるのではないかと思います。	郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクトでは、先行して高齢化が進む地域におけるモデルケースとして活動を支援しており、各々の地域の状況に応じて目的を共有する方々が力を合わせ、新たな発想で地域資源を生かして取り組んでいます。これらの取り組みが自立して継続できるよう支援していくとともに、他の地域の参考となるよう事例を積み重ねてまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ5 子育て支援

No.	ご意見・ご質問	回答
1	地域によって課題はバラバラなので、地域ごとの対策、対応が必要だと思う。	地域社会全体で子どもの育ちと子育てを応援していく環境づくりを目指し、今後地域や学校、企業など地域社会を構成する多様な主体との連携を進めていく中で、それぞれの地域における課題や対策等についてもご意見をいただき、具体的な取り組みについて検討を深めてまいります。
2	子どもが遊べるような場所がほしいです。	子どもたちの遊びの環境については、具体的なニーズや都市公園をはじめとした本市の都市資源の状況と活用策など、様々な角度からの調査を進め、本市の取り組みの可能性について今後検討を深めてまいります。
3	シングルマザー・シングルファザー向けの補助も施策に入れるべき。	ひとり親家庭の方向けの支援施策として、児童扶養手当の支給や医療費の助成など行っており、それらの情報をひとり親サポートブック『うえるびい』にまとめ、対象となる方へ区役所家庭健康課・宮城総合支所保健福祉課などで配付しております。 今後も、より分かりやすい広報に努めるとともに、当事者の方々の実情把握に努め、必要な支援策を検討してまいります。
4	保護者の希望と保育所の場所等のマッチングが必要。	保育所等の整備については、地域ごとの保育需要等を考慮しながら進めており、今後も、保育需要が多く保育所等が不足している地域を中心に、保育所等の整備を進めてまいります。 なお、各区や宮城総合支所の窓口には保育サービス相談員を配置し、保護者の希望を丁寧に聞き取り、きめ細かな情報提供・相談支援に努めているところです。
5	保育士の待遇改善を考えてほしいと思います。	保育士の賃金にかかる待遇につきましては、国の制度においても毎年引き上げが図られているほか、仙台市においても独自に経験年数3年未満の職員を対象とした補助制度を平成30年度より実施し、その充実に努めているところです。引き続き、保育士が安心して働けることができるよう取り組んでまいりたいと思います。
6	産後ケアの拡大も視野に入れて施策すべき。	産後ケア事業は、平成31年1月に開始したところでありますので、実績を踏まえて今後の方向性について検討してまいります。
7	切れ目のない子ども支援方を充実させてほしい。	安心して子どもを産み、育てることができるようにするため、切れ目のない子育て支援は重要であると認識しております。引き続き、子育て支援施策の充実に努めてまいります。
8	高齢者による見守りなど、地域で子どもを見守るしくみを作れないだろうか。	現在、民生委員児童委員など様々な主体に地域の子どもたちの見守り活動に取り組んでいただいております。今後も地域や学校、企業など地域社会を構成する多様な主体との連携を進めながら、すべての子どもが安全に、安心して成長できる環境づくりに向けて、具体的な取り組みの検討を深めてまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ6 学びの環境づくりによる生涯学習の推進

No.	ご意見・ご質問	回答
1	社会学級は貴重な試みです。是非続けて欲しいです。	社会学級につきましては、気軽に参加できる地域の学びの場という点において重要であると考えております。今後も、より多くの市民の方々に知っていただく手立てを工夫しながら、推進してまいります。
2	社会学級は、身近な地域コミュニティとして大切。	ご意見のとおり、社会学級は地域のネットワークづくりにもつながっております。今後も、地域のネットワークづくりに資するよう、多くの方に参加していただけるように取り組んでまいります。
3	「学ぼう」だけではテーマが広すぎるので、目的意識を持った人が集まる取り組みがあると良いと思う。	これまで、SMMA事業において、クロスイベント（複数の館が連携して行うイベント）や見験楽学ツアー（ミュージアム職員が同行解説し、ミュージアムや関連スポットを巡るツアー）などのテーマを工夫してまいりましたが、今後も目的の焦点や参加対象者層をより明確にイメージしながら、行事開催等に取り組んでまいります。
4	SMMAの内容自体は仙台を知るきっかけになる良いものなので、もっとPRを行って認知度を上げることが必要だと思いました。	これまではパンフレットやホームページで広報を行ってまいりましたが、今後もより広く市民の方々に知っていただくよう努力してまいります。
5	たくさんある生涯教育関連機関との連携が良くない。県や大学の図書館とも連携するべき。	これまでも専門分野を離れたミュージアムなどで連携してまいりましたが、今後も多様な施設との連携について、SMMAの会議の場などで検討させていただきます。
6	SMMAは仙台だけでなく、宮城全体として考えていくことも必要かと思えます。	宮城全体として学習の機会を提供する環境づくりに取り組むことは重要であると考えております。SMMAの会議の場などで検討させていただきます。
7	ミュージアムにわざわざ足を運びたいくなるような、インターネットでは得られない体験を。	施設で体験していただくことは、ミュージアムが提供する展示物等を五感で感じ、学びへの興味関心を誘発する点で重要であると考えております。今後とも、施設で実際に体験したくなるような内容を提供できるよう取り組んでまいります。
8	ホームページで気軽に見られる工夫をお願いしたい。	これまでもホームページで取り組みをお知らせしてまいりましたが、今後とも親しみやすいホームページ作成に心掛けてまいります。
9	様々なテーマを設定し、幅広い年齢の方が参加しやすいスタイルが必要。	多様な世代の方々に参加していただくことは多彩な交流の点で重要であると考えております。今後も、多様な世代の方々に興味を持っていただける形となるよう努力してまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ7 働きやすい環境づくり

No.	ご意見・ご質問	回答
1	仙台に人の流れを循環させる施策が必要だと思う。	本市では、若者の地元定着の他、UIターン就職促進の取り組みも行っており、今後もこうした人材還流の取り組みを継続してまいります。
2	仙台で就職することに対する考え方・意見について、大学と共同で調査をする必要があるのではないか。	大学と連携して開催してきた企業と学生の交流イベント等で学生の声を伺ってきたほか、大学と共同で調査を行った実績もございます。今後とも学生のニーズ把握に努めてまいります。
3	採用支援の情報について、ハローワークなどと連携して、企業にもっと広く周知してほしい。	ハローワークや宮城県と共催での合同企業説明会などを開催してきており、今後も各機関と連携しながら周知を図ってまいります。
4	仙台市奨学金支援制度の額が少ない。また、就職先の対象が中小企業のみなので、対象企業の幅を広げてほしい。	制度の趣旨や目的に鑑み、学生や企業へアンケートを実施するなど、課題の洗い出しを行いながら、事業のあり方について検討してまいります。
5	若手（新卒）、女性が主なターゲットで、社会人男性や障害者はターゲットになっていないように見えるので、こうした層への取り組みも必要。	仙台市産業振興事業団において、社会人等を対象にした「キャリア・コンサルティング」や「無料職業紹介」などを実施しております。多様な人材の活躍に向けて、今後も関係機関と連携しながら取り組みの拡充を図ってまいります。
6	仙台市が行っている取り組みの発信が不十分で、対象者に知られていないため、活用されていないように思う。仙台で働く魅力の発信が足りない。	本市が行う取り組みの周知については、対象者へ効果的に情報が届くよう、Web広告やSNS、チラシ、ポスター掲示などさまざまな手段で取り組んでいるところですが、今後も効果的な手法で必要な方に必要な情報が届くよう取り組んでまいります。
7	働く女性の活躍推進について、東京に比べ東北地方は一步遅れている印象を受ける。意識啓発やセミナー開催等の段階から次のステップに移行し、新しいアプローチ・施策が必要ではないか。	働く女性の活躍推進については、意識啓発やセミナー開催等に加えて、企業の女性管理職候補育成プログラムなど、より具体的な人材育成事業にも取り組んでいるところです。引き続き、効果的なアプローチについて検討を進めてまいります。
8	移住支援はあるが、移住後の支援がもっと必要。	移住後、転職した企業、そして地域に定着することが重要と考えております。そのためにもどういった支援が必要か、移住後の実態把握に努めつつ、検討してまいります。
9	女性管理職候補育成への支援は、女性のニーズと合っているか疑問である。	女性管理職候補育成プログラムの修了者や参加企業からは、「女性活躍に対する職場全体の意識が高まった」「互いに刺激を受けた」など評価をいただいているところです。引き続き、女性活躍推進に関するセミナーや各種講座、働く女性同士の交流の場などから得られたご意見を踏まえながら、ニーズに即した支援ができるよう取り組みを進めてまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

テーマ8 活力と賑わいにあふれる都心づくり

No.	ご意見・ご質問	回答
1	あまり使われていない土地等の有効活用や、商店街の活性化など、現在のまちづくりの取り組みが市民に広まっていないと感じました。世代により情報の入手手段等も違うので、広報に工夫が必要だと思います。	まちづくりは土地等の所有者や商店などを営む事業者など、多様な方々の関わりのもと進められるものと認識しておりますことから、様々な広報手段を有効に活用しながら、皆様へタイムリーに分かりやすくお伝えできるよう工夫していきたいと考えております。
2	色々手探りでも前に進んでいると感じました。何を目指しているのかを分かりやすく伝えることで、まちづくりの推進力は増すと思います。	市が考えるまちづくりの方向性や施策の目的などを分かりやすく伝えられるよう、施策の打ち出し方などを工夫していきたいと考えております。
3	将来を担う若者の意見に耳を傾けた方がよい。若者が集まるまちづくりを積極的に検討してほしい。	今後のまちづくりを担う若者の意見は重要であると考えており、今後も施策の検討や事業の具体化などにおいて、様々な機会を通じて学生等の意見を聞く場を設けていきたいと考えております。
4	仙台駅付近だけが発展している感じがするので、仙台市役所を中心とした賑わいの創出が課題だと思う。	仙台駅付近のみならず、勾当台・定禅寺通、青葉通・一番町の大通りを中心としたエリアの整備と、立町・大町・本町などで仙台ならではのローカルコンテンツの集積を進めることにより、都心全体の日常的な賑わいと回遊性を生み出すまちづくりを進めていきたいと考えております。
5	都心部でも緑の素晴らしい景観があるので、もっと活用すべきだと思う。	都心部の定禅寺通や青葉通などの街路樹空間や、西公園や榴岡公園などの都市公園など緑豊かな都市空間を活用したまちづくりを、市民活動団体や民間事業者等の民間パートナーの皆様と連携しながら推進していきます。
6	市民広場や他の場所でのイベントの告知をもっとした方がいいのでは？イベントが終わってから新聞等で知ることが多いので。	イベント開催などのお知らせについては、市政だよりをはじめ、仙台市ホームページやラジオなどを通じて広報しているところですが、皆様へタイムリーに分かりやすくお知らせできるよう工夫していきたいと考えております。
7	・期間限定のイベントに頼ったにぎわいは息切れする？ ・都心の交通の利便性に難あり	日常的な賑わいの創出や回遊しやすい都心のまちづくりを目指し、魅力的なコンテンツの集積や分かりやすく快適な公共交通、歩いて楽しい道路空間の再構築に向けた検討を進めていきたいと考えております。
8	古くから営んでいる店舗の減少を防止したいです。また、中心部に市場的な空間を望みます。町人文化を掘り起こし、横丁的空間も残してほしいです。	本市も参画するエリアマネジメント組織「仙台市中心部商店街活性化協議会」において、中心部商店街エリア全体の活性化に取り組んでおります。中小店舗の魅力発信や横丁の活用も含めて、関係団体と連携して取り組んでまいります。
9	水（広瀬川）の空間と分れていると思います。水路もあると良いかもしれません。	広瀬川は本市の大事な都市資源であると捉えており、管理者である宮城県とも連携しながら、親水空間の利活用などを推進していきたいと考えております。
10	市役所の低層階を市民に開放すると良いかも。	現在、新本庁舎の基本計画策定を進めているところですが、新本庁舎において、まちのにぎわいに資するよう市役所低層部の開放につきましても検討してまいります。

「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり2019～」
現在の取り組みに関する参加者のご意見・ご質問に関する考え方について

全般について

No.	ご意見・ご質問	回答
1	本日の結果が今後の方針にどの様に盛り込まれるか知りたい。	いただいたご意見につきましては、総合計画審議会へ報告し、現在策定を進めております新たな総合計画の議論の参考とさせていただきます。
2	100万都市仙台の総合計画策定にとって今回のフォーラムでの話し合いがどう生かされるのか疑問である。地域毎（中学校区程度）にフォーラムを開き、住民が直接に計画づくりに参画するようにすべきだ。今後の区別計画策定においてはぜひ、住民・市民の意見を聞き参画する場を地域毎に作るべきだ。	いただいたご意見につきましては、総合計画審議会へ報告し、現在策定を進めております新たな総合計画の議論の参考とさせていただきます。 また、区別計画の策定につきまして、平成30年度に区ごとに市民参画のイベントを行い、ご意見をいただいたところです。令和元年度におきましても、区ごとにイベントの開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください。
3	本日、各グループの意見を市民に見える広報をしてほしい。	いただいたご意見を取りまとめた報告書につきまして、本市ホームページにおいて公表しております。また、一部ではありますが、ご意見を地元新聞紙にも掲載したところです。今後も、市民の皆さまに幅広く届くよう、広報について工夫してまいります。
4	仙台市民以外からの参加者と外国人の参加者をもっと多く入れてもらいたい。	このたびの市民まちづくりフォーラムにつきましては、仙台市民の方々への無作為抽出によるご案内や市政だよりのほか、県内地元新聞紙や周辺自治体も含め配布されているフリーペーパー等により広くご案内をいたしました。また、外国人の方につきましては、（公財）仙台観光国際協会を通してご案内をしたところです。 今後も、仙台市に関わる皆さまに幅広くご参加いただけるよう、広報について検討してまいります。
5	各グループ発表の資料を後日でも発信してほしい。（メールや無料で見られるよう。参加で終わりではなく成果を活用したい）	いただいたご意見を取りまとめた報告書につきまして、本市ホームページにおいて公表しております。
6	本格的に意見交換できる時間スケジュールを計画して、次回も継続して新総合計画に反映してほしい。	このたびの市民まちづくりフォーラムにおきましては、参加者の皆さま同士で意見を交換する時間がもっとほしかったというご意見を多くいただいたところです。 今後も、より市民の皆さまからご意見をいただくことができるイベントのあり方について検討し、新総合計画の策定を進めてまいります。
7	総合計画だけでなく、様々な計画で今日のスタイルを取り入れてほしい。	総合計画以外の各分野の個別計画策定にあたりましても、アンケートや市民参画イベントなど、様々な手法で市民の皆さまからご意見を頂戴しているところがございます。今後、より多くのご意見をいただくことができるよう、その手法につきまして検討してまいります。